

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒108-8550

住 所 東京都港区芝浦二丁目10番5号

氏 名 五十嵐冷蔵株式会社

代表取締役 五十嵐 隆晴

印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策等の推進に関する条例第11条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	五十嵐冷蔵株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区東扇島30-2		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	H	運輸業, 郵便業
	中分類	47	倉庫業
主たる事業 の内容	食品の冷凍・冷蔵及び保管		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		4,158 k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		

※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計画期間及び報告年度	2022 年度 ~ 2024 年度 (報告年度 2024 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第1、2、4号該当者等)

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度		第1年度		第2年度		第3年度		目標排出量
	(2021年度)	(2022年度)	(2022年度)	(2023年度)	(2023年度)	(2024年度)	(2024年度)		
排出量 (t-CO2)	(実) 8,467	(実) 7,903	(実) 7,903	(実) 7,080	(実) 7,080	(実) 7,349	(実) 7,349	(実) 8,812	
	(調) 8,581	(調) 8,182	(調) 8,182	(調) 6,849	(調) 6,849	(調) 7,349	(調) 7,349	(調) 9,045	
削減率			(実) 6.7%	(実) 16.4%	(実) 16.4%	(実) 13.2%	(実) 13.2%	(実) -4.1%	
			(調) 4.6%	(調) 20.2%	(調) 20.2%	(調) 14.4%	(調) 14.4%	(調) -5.4%	

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値 (任意記載)

原単位等の活動量	収容トン数、入在庫量、在庫量				原単位等の単位	t-CO2/t			
	基準年度		第1年度		第2年度		第3年度		目標とした値
	(2021年度)	(2022年度)	(2022年度)	(2023年度)	(2023年度)	(2024年度)	(2024年度)		
排出量原単位等の値	35.67	32.90	32.90	29.17	29.17	30.30	30.30	37.13	
活動量の値	237	240	240	243	243	243	243	-	
排出量原単位等の削減率			7.8%	18.2%	18.2%	15.1%	15.1%	-4.1%	

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	基準年度に比べ原単位では7.8%の減少となった。一方、温室効果ガスの排出量については6.7%の減少となった。その理由としては、東扇島ロジスティクス・サービス・ステーションでの自然冷媒による冷凍機への変更が効果として寄与していたことである。	
第2年度	基準年度に比べ原単位では18.2%の減少となった。一方、温室効果ガスの排出量については16.4%の減少となった。その理由としては、去年度実施した、東扇島ロジスティクス・サービス・ステーションでの自然冷媒による冷凍機への変更が効果として寄与していたことである。	
第3年度	基準年度に比べ原単位15.1%の減少/温室効果ガス排出量13.2%の減少となった。その理由としては去年度実施した、東扇島ロジスティクス・サービス・ステーションでの自然冷媒による冷凍機の運転設定の見直しや、照明設備のLED化を進めたことが削減に寄与していたことである。	
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)		去年度実施した、東扇島ロジスティクス・サービス・ステーションでの自然冷媒による冷却設備での運用が目標以上の削減効果であると考えています。
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)		東扇島ロジスティクス・サービス・ステーションでの自然冷媒による冷却設備の運用についてコントロールする事で次の計画としていくことを考えています。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標) (任意記載)

管理標準による効率的な運用方法を実施している。削減目標については、全社目標としていた5年間平均1%以上削減に対し、原単位比で100.2%となり、目標の99%以下を達成することが出来なかった。電気使用量は当社が冷却設備等の管理権限を持たないテナント入居センターを含む事業所の合計で、対前年度比1%以上の削減を目標に掲げている中で、ほぼ前年度並みは悪い結果ではないと判断しております。
--

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他 ()		
その他 ()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ()	
EV、PHV、FCV	×	その他 ()	

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

<p>計 画</p>	<p>○推進体制の整備 本社と市内全センターを含めた組織横断的な委員会を設置し、推進体制を整備し、各部署間で情報交換を行う。 ○主要設備等の保安全管理 主要設備について作成している管理標準の運用を実施を継続していく。そして、管理標準を定期的に見直す事と共にエネルギー消費に関わる数値を記録管理して状況を把握しておく。 フロン冷却設備を自然冷媒設備に更新しエネルギー効率化を実施する。 ○照明設備の運用管理 照明設備更新時はLEDランプを使用した省エネルギー型設備の導入を実施していく。</p>
<p>第1年度</p>	<p>省エネルギー設備の導入に関しては、基準年度以前から検討や取り組みを行っている。具体的には、これまで次のような取り組みを実施してきた。 ○川崎市内の1事業所の冷蔵倉庫冷却設備を平成27年度までにHCFC22冷媒を使用していた設備から自然冷媒(NH3-CO2)を使用した設備へ全更新を完了している。 ○2021年～2022年に東扇島LSSの冷却設備をHCFC22冷媒設備から自然冷媒(NH3/CO2)を使用した設備に更新した。</p>
<p>第2年度</p>	<p>省エネルギー設備の導入に関しては、基準年度以前から検討や取り組みを行っている。具体的には、これまで次のような取り組みを実施してきた。 ○川崎市内の1事業所の冷蔵倉庫冷却設備を平成27年度までにHCFC22冷媒を使用していた設備から自然冷媒(NH3-CO2)を使用した設備へ全更新を完了している。 ○2021年～2022年に東扇島LSSの冷却設備をHCFC22冷媒設備から自然冷媒(NH3/CO2)を使用した設備に更新した。</p>
<p>第3年度</p>	<p>省エネルギー設備の導入に関しては、基準年度以前から検討や取り組みを行っている。具体的には、これまで次のような取り組みを実施してきた。 ○川崎市内の1事業所の冷蔵倉庫冷却設備を平成27年度までにHCFC22冷媒を使用していた設備から自然冷媒(NH3-CO2)を使用した設備へ全更新を完了している。また、設備更新後の運転設定の見直しを実行し改善している。 ○2021年～2022年に東扇島LSSの冷却設備をHCFC22冷媒設備から自然冷媒(NH3/CO2)を使用した設備に更新した。 ○照明設備の運用管理 各センターとも照明設備のLED化を引き続き実施中です。</p>
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	<p>前回での対策にて冷却設備更新をし効果が、計画期間中に大きく反映されたことで、計画目標値を達成出来たと考えています。</p>

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	なし

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	弊社業務で発生するラップ・バンド・ダンボールの資源ゴミを分別し、リサイクル業者への引取りが可能な廃棄物に対しては実施しており、今後においても継続する。
第1年度	弊社業務で発生するラップ・バンド・ダンボールの資源ゴミを分別し、リサイクル業者への引取りが可能な廃棄物に対しては実施しており、今後においても継続する。
第2年度	弊社業務で発生するラップ・バンド・ダンボールの資源ゴミを分別し、リサイクル業者への引取りが可能な廃棄物に対しては実施しており、今後においても継続する。
第3年度	弊社業務で発生するラップ・バンド・ダンボールの資源ゴミを分別し、リサイクル業者への引取りが可能な廃棄物に対しては実施しており、今後においても継続する。

6 基準年度からのエネルギー起源CO₂の排出の量等の推移（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
エネルギー起源 CO ₂ 排出量	8,467 t-CO ₂	7,903 t-CO ₂	7,080 t-CO ₂	7,349 t-CO ₂
原油換算エネルギー 使用量	4,371 KL	4,252 KL	4,155 KL	4,158 KL
事業所の数	5	5	5	5

(2) 事業所等単位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
東扇島第一物流センター	川崎市川崎区東扇島30-2	2,916	2,953	2,841	2,724

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
東扇島ロジスティクス・サービス・ステーション	川崎市川崎区東扇島17-8	2,375	1,852	1,348	1,648
東扇島第二物流センター	川崎市川崎区東扇島24	1,934	2,035	2,081	1,965
東扇島第五物流センター	川崎市川崎区東扇島29-3	1,238	1,058	805	1,008